

報 告

神奈川県秦野市におけるアカマシコ *Carpodacus erythrinus* (スズメ目: アトリ科) の観察記録

大石敏子・平田寛重

Toshiko Ohishi and Hiroshige Hirata: A record of Common Rosefinch, *Carpodacus erythrinus* (Passeriformes: Fringillidae) from Hadano City, Kanagawa Prefecture

緒 言

アカマシコ *Carpodacus erythrinus* は、スズメ目アトリ科に属する全長 14 cm の鳥類で、ヨーロッパ東北部からシベリア、ロシア極東部、カムチャツカまでのユーラシア大陸北部とヒマラヤ周辺で繁殖し、南アジアで越冬する(榛葉, 2016)。日本では稀な冬鳥または旅鳥として北海道から九州にかけて記録があり(日本鳥学会, 2012)、主に日本海の離島での観察が多い(榛葉, 2016)。関東近隣では、栃木県、埼玉県、山梨県、静岡県で報告があるが、神奈川県での記録は見られない(日本鳥学会, 2012; 日本野鳥の会神奈川支部, 2020)。

筆者の一人である大石は、秦野市弘法山公園でアカマシコのオス成鳥個体 1 羽を観察及び撮影したのでここに報告する。

材料と方法

アカマシコを観察したのは 2014 年 4 月 23 日及び 24 日、場所は秦野市弘法山公園の女坂降り口付近の桜並木であった(図 1)。天候は両日とも晴天、無風で大石以外に観察者は見られなかった。観察は目視、撮影は 100–400 mm 望遠レンズ付き一眼レフカメラによった。観察者と当該個体との距離は 5–6 m 前後であった。撮影した画像は、神奈川県立生命の星・地球博物館の鳥類アーカイブス資料(KPM-NQB)として登録されている。なお、同館における鳥類アーカイブス資料の標本番号は、電子台帳上はゼロが付加された 6 桁の数字が便宜的に使われているが、本報告では、標本番号として本質的な有効数字で表した。

結果と考察

観察地において、4 月 23 日の午前 10 時過ぎに本種が

観察された。女坂の降り口から 5–6 m 下がった付近から著者が上方向を見ていた時、南側から 1 羽が飛来しサクラの枝に止まった。本個体はその後数分の間、複数のサクラの木を転々と移動し、北西に飛去した。周囲にはほかに鳥は見られず、鳴き声も聞かれなかった。翌日 24 日は、観察を開始した午前 10 時頃には、前日と同一の

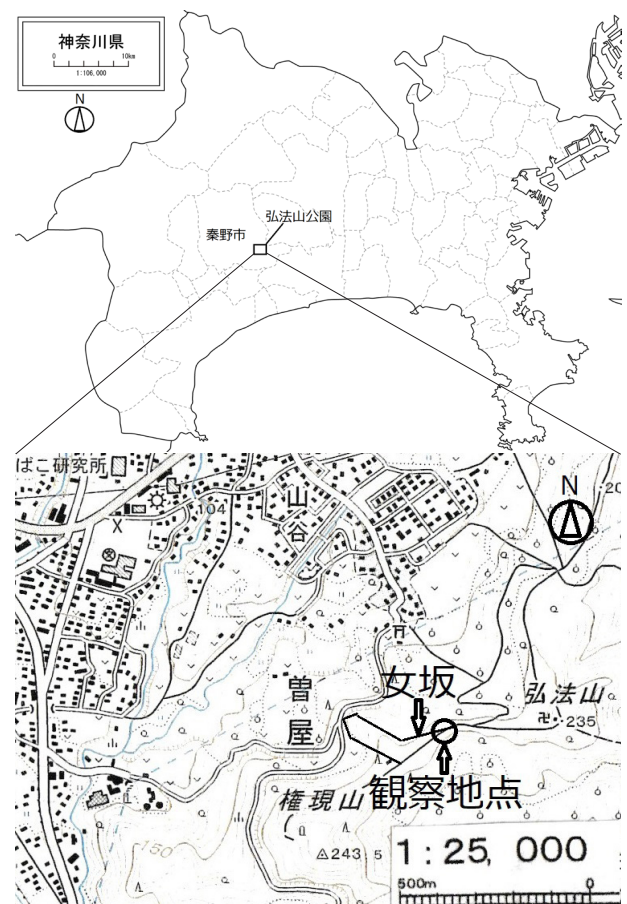


図 1. 観察地点. 神奈川県の地図は 3kak-K の白地図を、弘法山公園の拡大図は国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図(秦野)を、それぞれ使用し、一部加筆した。

個体と思われる1羽が、前日の観察地点から20 mほど東側に離れたクヌギの枝に止まっており、その後、2時間ほど見られた。25日以降は確認できなかった。

本個体の嘴は灰褐色で太く短かった。顔は赤く、目先は黒色、頭部から喉から胸、腹にかけて赤色だった(図2: KPM-NQB 903A)。翼は黒褐色で中雨覆、大雨覆の羽縁及び腰は赤色。後頸から背にかけては赤味を帯びた黒褐色(図3: KPM-NQB 904A)、尾は短めで凹型をしており、



図2. サクラの木にとまるアカマシコの成鳥オス。2014年4月23日、大石敏子撮影, KPM-NQB 903A.



図3. 図2と同個体の背面。2014年4月24日、大石敏子撮影, KPM-NQB 904A.



図4. 図2と同個体の前面。2014年4月24日、大石敏子撮影, KPM-NQB 905A.

黒褐色であった(図4: KPM-NQB 905A)。大きさはシジュウカラ *Parus minor* とほぼ同じくらいの14-15cm程度に見えた。嘴は円錐形で太く、明瞭な凹尾であることからアトリ科の鳥類であると判断した(高野, 1989)。日本で記録のあるアトリ科のうち頭部および喉が赤くシジュウカラ大の種は、アカマシコ *Carpodacus erythrinus*, オオマシコ *Carpodacus roseus*, イスカ *Loxia curvirostra*, ナキイスカ *Loxia leucoptera* である(真木ほか, 2014)。しかし、嘴の先端が交差ししないこと、中雨覆および大雨覆の羽縁が赤色であることからアカマシコと判断した(真木ほか, 2014)。

本種メスの場合、背に褐色の不明瞭の斑があり、大雨覆および中雨覆の先端は白い。下面は汚白色で胸に褐色の縦斑がある(五百澤・山形, 2014)。以上の特徴がみられないことから、オスと判断した。

オス第一回夏羽は、全体的に灰褐色だが、額、胸、腰、背から雨覆、尾の外側に赤色がわずかに見られる。雨覆羽縁の白斑は一部見られる(真木ほか, 2014)。オス第二回冬羽の場合、頭部、腮、喉、胸にかけてと腰に赤味が見られ、胸から脇、腹、背、翼、後頸部から背にかけては灰褐色である(五百澤・山形, 2014)。しかし、本個体にはこれらの特徴はみられなかったことから、オスの成鳥と同定した。

今回の報告以前に神奈川県ではアカマシコの渡来記録は見られず、この観察事例は県内での初記録となる。

謝 辞

報告にあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館の加藤ゆき学芸員および編集委員の皆様へ厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 五百澤日丸・山形則男, 2014. 新訂日本の鳥 550: 山野の鳥. 416 pp. 文一総合出版, 東京.
真木広造・五百澤日丸・大西敏一, 2014. 決定版日本の野鳥 650. 788 pp. 平凡社, 東京.
日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 438 pp. 日本鳥学会, 三田.
日本野鳥の会神奈川支部, 2020. 神奈川の鳥 2011-15: 神奈川県鳥類目録 VII. 685 pp., 8 pls. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.
榛葉忠雄, 2016. 日本と北東アジアの野鳥. 647 pp. 生態科学出版, 相模原.
高野伸二, 1989. フィールドガイド日本の野鳥, 増補版. 341 pp. 日本野鳥の会, 東京.

大石敏子: 神奈川県平塚市; 平田寛重: 日本野鳥の会神奈川支部

(受領 2021 年 10 月 25 日; 受理 2022 年 2 月 19 日)